

2021 年度 第 13 回関私教協幹事校会議事録

1. 日時 2022 年 4 月 18 日（月）18：30～19：50

2. 形態 Zoom 会議

3. 出席者

【幹事】眞田 克典（東京理科大学・事務局長）、鈴木 麻里子（流通経済大学・事務局次長）、齋藤 史夫（東京家政学院大学・事務局次長）、大島 真夫（東京理科大学）、齋藤 智志、渡辺 恵（杏林大学）、山本 智子（国立音楽大学）、鈴木 隆弘（高千穂大学）、戸川 点（拓殖大学）、下田 好行（東洋大学）、長嶺 宏作（帝京科学大学）、瀬川 大（日本女子体育大学）、吉田 真理子（洗足学園音楽大学）、片岡 祥二（共栄大学）、佐々木 竜太（清和大学短期大学部）

【事務担当】常盤 朋子（東京理科大学）

【オブザーバー】西村 志乃（洗足学園音楽大学）、安藤 真聡（慶應義塾大学）、田村 真広（日本社会事業大学）、池田 賢市、高木 雅史（中央大学）、後藤 正矢（多摩美術大学）、伊東 毅、谷川 美の理（武蔵野美術大学）、河村 久、田中 直樹（聖徳大学）、山崎 真之（東京国際大学）、新田 司（千葉敬愛短期大学）

4. 協議

〔報告事項〕

（1）研究部の活動について

○部会の活動について

- ・第 8 部会：5 月に開催する全私教協研究大会の分科会において、昨年 10 月に第 8 部会でご講演いただいた滝沢和彦先生（現育英大学）が「全私版自己点検評価報告書作成の手引き」について解説を行うことから、第 8 部会に質問事項の取りまとめ依頼があった。

（2）『会報』第 91 号の編集について

吉田広報部副部長から、校正作業がスケジュールどおり順調に進んでいること、2 校の校正は広報部が行うとの報告があった。また、『会報』第 92 号の編集依頼を未知の駅へ依頼することの説明があった。

（3）2022 年度幹事校・世話人の体制について

眞田事務局長から、資料 1 に基づき、2022 年度幹事校・世話人の体制について報告があり、5 月 15 日（日）開催の第 1 回幹事校会で新旧幹事の引継ぎとなることの説明があった。

〔審議事項〕

（1）2022 年度定期総会・合同研究大会、研究部総会・第 1 回研究部会への準備について

眞田事務局長から以下の提案があり、承認した。

①当日スケジュールについて

資料 2-1 に基づき、当日のスケジュールについて説明があった。出欠を 4 月 22 日（金）締切りとしているため、幹事校の大学は早めに申込みいただきたいとの依頼があった。

②定期総会議案書案について

資料 2-2 に基づき、2022 年度定期総会議案書案について説明があり、第 3 号議案（2021 年度会計決算案）、第 4 号議案（2021 年度会計監査報告）及び第 7 号議案（2022 年度予算案）については会計監査後に差替え、後日メール審議を行う旨の説明があった。

③当日の議事等進行確認について

資料 2-3 に基づき、当日の議事等進行の確認を行った。承認方法として、昨年度同様にミュートを外して、拍手で承認することの説明があった。

（2）全私教協第 41 回研究大会への準備について

眞田事務局長から、全私教協事務局との意見交換での内容を基に説明があり、シンポジウムの司会の一人を鈴木事務局次長に依頼すること、研究大会の参加申込にかかる事務処理について全私教協事務局と連携を取りながら今後検討を進めることを承認した。

（3）第 2 部会によるアンケート調査について

第 2 部会世話人の長嶺幹事から、資料 3 に基づき、2016 年度からの継続調査として「教職（課程）センター」（教職課程運営組織）に関するアンケート調査実施の提案があった。5 月下旬～6 月上旬を目途に関私教協会員校に対して Google フォームを用いたアンケート調査を行い、第 2 部会で結果を分析したうえで報告書を作成することの説明があり、承認した。

5. 退任幹事挨拶

6. 配付資料

資料 1：2022 年度 関私教協役員大学担当表（案）

資料 2-1：関私教協 2022 年度定期総会、東教協との合同研究大会及び 2022 年度研究部総会、第 1 回研究部会開催のご案内

資料 2-2：2022 年度定期総会 議案書（案）

資料 2-3：2022 年度定期総会次第、進行表

資料 3：第 2 部会「教職（課程）センター」（教職課程運営組織）に関するアンケート

以 上